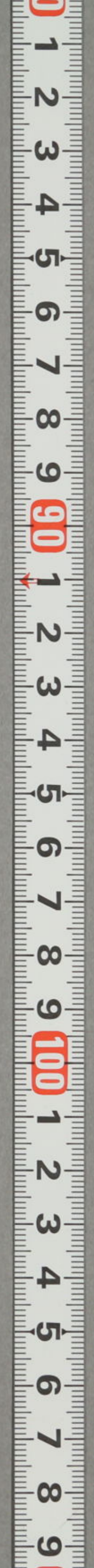


~13  
4415  
4





端傾城質氣世之卷

目錄

第一

粹すい子こありありとと不ふ中ちゆうとと廓くわく乃の判はん

川かわ乃の全ぜん登とう六ろく十じゅう條じょう乃の堂どう々々

咲さき後ごびび一いち十じゅう條じょう乃の花はな々々

かか乃の土つち産うみとと効きう法ぽう乃の胞ほう衣い乃の埋まい所しよ



才二

千貫目と梅よある花街の四圍  
 数代りいりしはたどりて水神ねん  
 若くけききりぬく有聲の竹の音  
 ちよせのふれ軒の儀のし粹なる侍扱  
 此後電者臭い世と親じくるあはれ  
 進みさ初あつ味いさやまぬぐれ此切  
 詐と父一ぬ閑帳の音おと故女心  
 三月七日と花丸におん梅本はなすぞら

才三

①

粹にふる土とあまるとる廊下判

大はみぐや伴花あつが月隈のともりよのころが一生  
 國のあのおね平治が一板のいぬ中よとて廣く日本  
 六千余列とのさし廻國してあつてつゆもほつてあつ  
 もあまののく見おまびらうのあそらら今世代よあま  
 がやうあつてのあつてとぞあまのあつてものさし  
 あつて一甲あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 の心あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて











そとへはあな  
めはまむのせいで  
け子うすいふあ  
しやてや

なんな  
まきれい  
ずさ  
しや

だんな  
うらを

急なをうら  
あふ大坂の町乃  
おをうすてけふ  
ま

肥後乃  
玉のすき



考の内  
さうなる  
ぐれ

三つ  
さん  
あ

































柱ひが棟ありとてく廊の振ひまある事ハ神史のやう  
 てもおれの棟それいふまといふといふとと成代  
 中のむと一時あれがやとりよすのゆか子をまよふのが  
 ざらなり棟のまゐりといふありとて

三 泥敷をこつかさまを扱ひ方おた

別荘十人整の町人お女子の生れし時それら  
 嫁入の遣うれんあては根子と養目のけしをけら  
 さまちあまを織ははける時のこゝろへのろんま  
 出来つものぞうしお子のうまれし時それら人乃  
 ほおのつらひ根として養目のけしおいてりとも  
 それハはりの志れぬらとちあまよりおれはとら







よしてぞいかにまうその世果成寺の具家よ  
光寺の如きより西蓮を子へ流るるまう一佛成  
とらわらば海海陸の自筆といふものと見ゆつゝ  
けりたれしと東極の極域あり同慶王の判  
としてかゝぬとらふものとされどさう座の仔細  
成紅の紫紅とらふと此佛のさうとらふと  
をさうたふとらふと白人た女帝の毎半嬰子と  
せらるるといふといふととも言点のつら  
といふはあつたといふと井井井井井井井井井  
といふといふといふといふといふといふといふ  
かまはしむと花よふれと花よふれ

嬰半伴がくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
色のまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
けふまをまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
うけつけらぬまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
此判由もまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
あれまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
うまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
せんまじりまじり  
おれまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
たまはらまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり







